

附記

藤村君は今年三十七歳であるから、まだ恩給にはならないそうである。それも僅かに三箇月ほど足りないそうでお氣の毒でならぬ。現在の住居は、同潤會の分譲住宅であるが、これは誰かに譲つて、家族は郷里兵庫縣六粟郡千種村に引籠るとのことである。郷里には幸にも兩親が健在であるからよいやうなものゝ、差當つて困ることは子供さんの教育である。上のお嬢さんは第八府立にゐたのだから、郷里の何處かへ轉校しなければならぬが、千

種村には入るべき學校がなく、下宿をするか寄宿舎に入らねばならぬ。通動するのと下宿なり寄宿舎に入るのでは費用が大分異なる。それに次々と上の學校に上らねばならぬ子供さんがあるから、この點が一番困つたことになつてしまつた。今事情のわかつてゐるのは上のお嬢さん一人位のもので、小さい人には何も判らないやうだが、未亡人にはこれが、何よりの苦勞らしい。何れにもせよ、お氣の毒なことである。これを藤村君の遺族だけのことゝ言へやうか同じ定めでないと誰が保證しやう。

北海道打診

(七)

瀧川勸則

(十一)
續

◎實績(續)

(1) 昭和二年度(第二期拓殖計畫實施第一年)事業の實績
本年度既定の工事費豫定額は四百三十一萬九百四十五圓であつたが豫算も同額の成立を見た此の成立豫算の範圍内

で既に述べた方法に依り事業實施計畫を樹て、事業の分量を定め、事業を執行したのであるがその結果は左に示す第一表の通りである。本年度に於ては本計畫豫定事業費と同額の豫算を得之を實行に移し得たのであるが、實績額額は四百三十一萬五千二百八十五圓である。而して實績額は四百十萬七千四十一圓八十六錢であつて二十萬八千二百四十三圓餘の差額を生じた、此の差額の一部は不用額であり他の一部は翌年度に繰越されて居る。

本年度に完成した事業の分量中特に注意すべきは道路修繕工事である。本年度豫定分量は千七百二十七里此の經費百七十八萬七千餘圓であるが、此の竣功額は百六十八萬六千餘圓であつて豫定額との差は僅に十萬圓であるが事業の出來高は道路修繕百六十六里餘と橋梁修繕四百七十二箇所に過ぎない。即ち金額に於ては豫定の九割餘を支出し得たのであるが出來高に於ては豫定の一割を竣功せしめ得たるに過ぎないこれは一見甚だしく、不成績の如くであるが、一方に於て北海道に於ける道路修繕の困難事業なること

を示す事例であると思ふ、簡易建設法に依り新設された道路は通常の自然に於ても維持修繕が頗る困難である然るに北海道に於ては尠くとも内地と比較して不良な自然と戦はねばならぬのである。第二期拓殖計畫改訂案に於て道路維持修繕費の増額を企圖したことも右の如き實施の經驗に基くものである。斯の如き報告に接した者は北海道の實地に付調査するまでもなく右の如き改訂案を承認せざるを得な

(2) 昭和三年度事業實績

本年度既定の工事費豫定額は四百五十五萬二千四百七十八圓であるが實行豫算は四百三十萬九百九十二圓であつて、豫算に於て既に二十五萬五百七十六圓の不足額を生じた。

計畫實施第二年度に於て斯く多額の不足を生ずるに至つたことは北海道拓殖に一大暗影を投じたものである。然も此の不足は道路計畫に付てのみでなく並行すべき他の諸事業に於ても同様多額の不足額を生じたのであるから、計畫の前途に悲觀の説を稱ふる者を生ずるに至つたのである、

而して右豫算の範圍内に於て事業を實施せる結果第二表に示す如き成績を得たのである、即ち實施計畫額は前年度繰額を合せ四百五十四萬九千二百七十圓であつて實施の結果四百七十二萬二千七百四十四圓六十九錢の實績を示してゐる。本年度の支出額は、豫算並實施計畫額に比し十七萬餘圓の超過を示して居るのであるが、之は事業費中に勞力其他寄附を算入して實績を示した結果に依るものである、本年度支出經費を見るに道路橋梁改良工事の經費が實施計畫に比し實績額に於て著しく増加せるを見るのである。前年度に於ても同様であつたが、特に本年度に於ては金額に於ても事業の出來形に於ても特に著しき増加を示したことは實際上の必要に即し計畫の内容を變更したものと思はれる。道路新設工事に於ては其の經費に於て、約九十萬圓の減額となつて居るが出來形に於ては豫定に比し約一割の増加を示してゐる計畫内容の低下に依る結果に非ざれば幸である。道路橋梁の修繕に於ても前年度と同様千七百七十六里を豫定せるに拘らず道路百五十餘里橋梁四百二十一箇所

に過ぎざるは、不成績の顯著なるものと言はざるを得ない。

(3) 昭和四年度事業の實績

本年度既定の工事費豫定額は四百七十六萬二千七百七十圓であるが、成立豫算は四百三十萬千六百五十八圓であるから四十六萬五千五百二十二圓の不足であつて財界の不況益々深刻となれるに伴ひ北海道拓殖事業も愈々大なる打撃を蒙ることとなつた。昭和三年度及四年度に於ては豫定財源に不足を生じたので拓殖計畫全部に亘り一般財源より千四百四十萬圓の補填を行ひ漸く前述の如き豫算を編成し得たのである而して之が實施の結果は第三表に示す通りである。實施計畫額は四百七十七萬三千二百九十四圓之に對する實績額は三百九十九萬七百六圓四十八錢であつて其の差額は八十二萬二千五百八十七圓五十二錢である。斯る多額の殘額を生じたことは、事業上甚だ遺憾なるのみならず、將來の豫算要求上最も不得策であつて著しき障害となるものと言はねばならぬ。思ふに年度當初に於て豫定の如き豫算成立せざ

る場合は事業に従事する者に精神的大打撃を與へ、やがて之が事業の上に不知の間に表現し竟に前述の如き不良なる結果を招來するのではあるまいか、特に北海道の如く中央を距ること遠く、氣候風土も不良な土地に於て困難なる事業に従事する場合に於ては、右の如き問題から受くるショックは我々が中央に於て考へる以上のものがあると思ふ。不成績を責むると共に他面一掬の同情を禁じ得ないものがある。斯の如き精神的動遙を完全に防止し、せめて取れた豫算だけは正當に消費し得るだけの修養と熟練とを積まねばならぬ。それには先官吏採用の標準を頭腦と學業萬能主義から人物本位に移さねばならぬ。特に北海道の如き地方に於て偉業を爲さむとする者は智慧ばかりでうまく行く筈がない。熱情を以つて第一とすべきではあるまいか、然しながら本年度に於ても出來た工事の分量は道路修繕工事を除き大體に於て實施計畫以上になつて居るので見方に依つては經濟的に工事を執行した結果なりとも謂ひ得るのである。

(4) 昭和五年度事業の實績

本年度既定の工事費豫定額は四百七十八萬二千六十圓であるが、成立豫算額は三百七十九萬九千七百十五圓であつて、九十八萬二千三百四十五圓即ち約二割の不足額を生じたことは拓殖計畫愈々多難なる行程を辿りつゝありと言はざるを得ない。而して前年度繰越額を含む實施計畫額は四百七十七萬八千三百八十四圓、實績額は三百五十二萬二百十七圓七錢であつて百二十五萬八千六百六十六圓九十三錢の殘額を生じたのである、然るに實施數量に於ては前年度と同様實施計畫に比し修繕工以外に於ては必ずしも不成績ではない。經濟界の事情に依り前述の如き結果を生じたのであつて、仕事の分量に於ては金額に於て感ずる程不良でないのである。

(5) 昭和六年度事業の實績

本年度既定の工事費豫定額は四百九十一萬八千六百六十一圓であるが成立豫算は三百四十八萬百六十九圓なり而して之を比較するに百四十三萬八千四百九十二圓即ち約三割

の不足額を生ずるに至つたことは寔に遺憾とせざるを得ない。然るに本年度に於ては財界の不況愈々深刻化し失業者簇出し由々敷社會問題を惹起せむとする状態に立至つたのである。依つて政府は全國的に失業救済事業執行の必要を感じ之が計畫を樹立したのであつた。北海道に於ても事業費百萬圓を以つて多數の失業者を擁する大都市附近に於て國道改良事業を施行し以つて失業者救済に資したのである

が、此計畫は内務省土木局に於て樹立し併せて工事施行の監督に當つたので道路の構造規格は専ら近代的交通の要求に適合せしむる爲大いに努力したのである。右の結果失業救済の目的を達すると同時に、北海道に於ける模範的道路の出現となり將來の北海道道路事業に對し一大指針を與ふるに至り偉大なる効果を胎したのである。然しながら此の事業は拓殖費外であるから第五表欄外に記載し実績額より除外することゝした。本年度の実績中特に注意を要するは、前年度迄の実績に比し道路新設工事及修繕工事に於て比較的好成績を挙げ得たことである。即ち前者は豫定計畫

額の約三割三分の經費を以つて豫定數量の十割五分の事業を完成し、後者は前數年の成績に比し約倍に近き成績を示して居る。

(6) 昭和七年度事業の實績

本年度既定の工事費豫定額は五百三十九萬八千五百二十二圓なりしも成立豫算は五百八十七萬二千四百五十五圓なるを以つて四十七萬四千四百三圓の増加を示してゐるが、右は北海道未曾有の大水害ありたるに對し、之が救済上産業振興事業として二百十二萬七千五百一圓の道路改良事業費追加せられたるに依るものである、第六表中（振）は之を示すものである。右の外拓殖費外に於て國道を改良したるもの第六表欄外記載の通りである。本年度に於ては努力其の他の寄附を合せ昭和三年度と共に拓殖計畫に於て當初豫定せる金額以上の実績を得たのである。然しながら實際支出に於ては未だ豫定金額を超過しないのである。

(7) 昭和八年度事業の實績

本年度既定の工事費豫定額は五百八十五萬八百六十二圓

成立豫算は六百二十一萬七千三百五十二圓なるを以つて豫定額に比し三十六萬六千四百九十圓の増加を示すも右は北海道未曾有の凶作に際し農山漁村振興事業施行の必要を感じ道路改良事業費二百九十六萬九千二百九十三圓を追加せるに依るものである然るに之が實績を大觀すれば成立豫算に比し百十五萬二千六百三十三圓七十三錢の殘額を生じ年初の實施計畫に比し七十八萬二千五百九十一圓七十三錢の殘額となれるは救濟又は振興の目的を完全に果し得たりや否や疑問ならざるを得ない。就中救濟事業に於いては其の主たる目的は仕事の分量に非ずして施行の方法と救濟支出額とに重要性があることを知らねばならぬのである。又振興事業に於ては仕事の分量に意義あるものであるが不幸にして本年度は豫定の事業を遂行し盡さなかつたのである。

(8) 昭和九年度事業の實績

本年度既定の工事費豫定額は六百五十四萬六千五百二十四圓成立豫算は四百四十一萬六千五百十三圓なるを以て豫定に比し二百十三萬十一圓即ち三割二分の不足額を生じ

た。右は財界不況に依る一般豫算の縮少と農山漁村振興事業費の二百三萬圓に削減せられたる爲にして、前年度實績の不良なりしに鑑み、本年度に災を醸したるものと認められる、仕事の分量に於ても漸次低下せるは意氣沮喪せるに依らざるか疑問たらざるを得ない。尙第九表は計畫實施初年度から昭和九年度末迄の實績總括表である。

總括表に現れた實績は前數年度に就いて述べた所を綜合すれば自ら明瞭であるが第二期拓殖計畫に於ては土木的施設は總體の約六割を占め、道路費は拓殖費總額に對し年々一割八分を占むるのである、而して實績に依れば道路費八年間中の殘額は支出豫定額に對し一割四分に當り其の金額に於ても六百萬圓に近いのである之より推論すれば拓殖計畫全體に於ける殘額は莫大な數字を示すべく成績良好なりと言ひ難い、工事の出來形に於ては道路修繕に於て大蹉跌を來したる外大體數字的には當初の目的に到達した如之思はれるのであるが實施事業の程度及竣功後の效用に至りては當初の期待に添はざるもの多しと言はざるを得ない。

第一表 (實施第一、二年昭和二年度) (本表には監督雜費を含まず第二表以下同斷)

事業種別	實施		實績	
	數量	算	數量	額
新設測量	100	1,000,000	100	4,067,000
新設工事	6	1,000,000	10	1,368,500
改良測量	3	4,500	3	10,500,000
改良工事(道路)	9	1,600,000	9	7,513,000
改良工事(橋梁)	2	5,500	2	3,912,000
修繕工事	1,777	1,777,445	1,665	1,666,766
道路敷地調査	3	2,500	3	3,027,000
境界標建設	3	3,000	3	3,027,000
道路改良補助	3	3,000	3	3,027,000
驛舎新設	1	2,600	1	2,766,000
同 改築	1	2,600	1	2,766,000
同 修繕	1	2,600	1	2,766,000
同 馬匹購入	1	2,600	1	2,766,000
同 取捨人手當	1	2,600	1	2,766,000
渡船場新設	1	2,600	1	2,766,000
同 維持	1	2,600	1	2,766,000
同 補助	1	2,600	1	2,766,000
計		4,352,265		20,624,100

線定額と實施額との差
 本差額は一部不用額
 他の一部は翌年度繰
 越額なり(第二表以
 下同斷)

第二表 (昭和三年度)

事業種別	實施		計畫		實施		實施額	豫定額と實施額との差
	事業數量	豫算	事業數量	豫算	事業數量	豫算		
新設測量	100里	45,000円					37,693.06円	
新設工事	90里	2,400,000円					1,159,450.77円	
改良測量	1里	4,900円					10,555.75円	
改良工事(道路)	11里	3,240,026円					995,457.63円	
改良工事(橋梁)	1里	33,350円					956,569.81円	
修繕工事	1,766里	1,281,260円					1,386,706.87円	
道路敷地調査	1里	1,845円					68.36円	
境界標建設	6箇所	3,000円					19,999.33円	
道路改良補助	4,072箇所	3,310,333円					57,499.33円	
驛遞新築	1箇所	28,090円					26,255.00円	
同 改築	3箇所	6,000円					26,033.54円	
同 修繕	8箇所	1,600円					3,870.25円	
同 馬匹購入	1頭	12,000円					5,480.00円	
同 取扱人手當	240人	26,800円					3,957.08円	
渡船場新設	4箇所	5,825円					6,557.88円	
同 維持	1箇所	8,840円					4,844.44円	
同 補助	1箇所	26,640円					6,054.56円	
計		4,549,270円					4,733,744.69円	(超過額) 173,474.69円

實施計畫に比し實績額多きは勞力其の他の寄附を算入して實績を示したるに依る

第四表 (昭和五年度)

事業種別	實 績		計 畫		實 績	實 績	豫定額と實績との差
	數量	豫計	數量	豫計			
新設測量	100里			155,000円	132里、4分	3,750・31	(第一表参照)
新設工事	20			2,000,000	13,026・78	9,076・75	
改良測量	1里			4,000	5,261・95	1,261・95	
改良工事(道路)	2里、6分			33,877	4,311・91	8,291・53	
改良工事(橋梁)	100箇所			35,000	5,449	2,676・86	
修繕工事	1,855里			1,961,810	1,971,057・54	1,399・86	
道路敷地調査	0			0	0	0	
境界標建設	6里、7分			3,000	101,010・44	15,848・05	
道路改良補助	6里、7分			4,100	11,283・90	5,099・34	
驛遞新築	1箇所			28,090	3	29,184・00	
同 改築	3			1,000	3	1,066・00	
同 修繕	8			1,000	2	8,043・24	
同 馬匹購入	8頭			3,000	5,050・00	2,050・00	
同 取扱人手當	33人			27,600	36人	26,171・45	
渡船場新設	3箇所			5,850	3箇所	3,000	
同 維持	19			8,400	18	3,064・44	
同 補助	0			26,640	5	4,456・80	
計				4,778,364		3,520,270	1,258,094

第五表 (昭和六年度)

事業種別	實 施		計 畫		實 績		豫定額と實施額との差
	事業數量	線	算	畫	實施數量	實施額	
新設測量	100里		450,000	450,000	27,513.7	2,496,330	
新設工事	90		2,000,000	2,000,000	9,502,144.4	6,990,568.5	
改良測量	26		5,600	5,600	8,833,472.0	1,775,140	
改良工事(道路)	13		33,977	33,977	5,933,404.6	8,915,400	
改良工事(橋梁)	200		35,400	35,400	5,619	2,998,444	
修繕工事	1,621里		1,926,135	1,926,135	30,093,323	1,271,263,411	
道路敷地調査	60		0	0	橋梁5,2箇所	0	
境界標建設	7,071里		22,000	22,000	7,000,273.6	22,464,533	
道路改良補助	7,071里		52,100	52,100	8,342,566	5,983,667	
驛遷新設	2箇所		26,000	26,000	2箇所	1,910,000	
同 改築	3		6,000	6,000	2箇所	2,997,000	
同 修繕	8		1,000	1,000	5	3,477,767	
同 馬匹購入	8頭		11,000	11,000	3頭	2,468,000	
同 取扱人手當	35人		27,000	27,000	25人	2,755,101	
同 渡船場新設	3箇所		5,825	5,825	2箇所	1,198,644	
同 船舶維持	19		8,840	8,840	18	3,777,599	
同 補助	90		26,640	26,640	17	3,100,933	
計			4,749,999	4,749,999		3,691,535,554	1,058,464,445

(第一表参照)

右の外失業救済道路改良北海道國道改良費を以て施行したる國道改良工事八箇所あり此の延長十三里四町三十一間餘工費九十三萬七千二百四十七圓とす。

第六表 (昭和七年度) (振) は追加せる水害救済の爲起與せる振興事業を示す

事業種別	實 施		計 畫		實 績		豫定額と實施額との差
	數量	施	豫	畫	實	績	
新設測量	100	里	100	里	100	里	0
新設工事	100	里	100	里	100	里	0
改良測量	3		3		3		0
改良工事(道路)	16		16		16		0
改良工事(橋梁)	25	間	25	間	25	間	0
修繕工事	18	里	18	里	18	里	0
境界敷地調査	0		0		0		0
道路標建設	7		7		7		0
道路改良補助	9,000	里	9,000	里	9,000	里	0
驛遞新設	1	箇所	1	箇所	1	箇所	0
同 修築	2,600	里	2,600	里	2,600	里	0
同 馬匹購入	8	頭	8	頭	8	頭	0
同 取扱人手當	3,000	箇所	3,000	箇所	3,000	箇所	0
同 船舶新設	5	隻	5	隻	5	隻	0
同 船舶維持	5,815		5,815		5,815		0
同 補助	8,840		8,840		8,840		0
計	26,646		26,646		26,646		0

右の外道路改良北海道國道改良費及失業救済道路改良費北海道國道改良費を以て國道を改良したるもの四箇所あり此の延
長三里二十六町二十三間餘、工費九十三萬八千八百九十五圓とす成立豫算額及實施計畫額に比し實績額多きは第二表同斷

第七表 (昭和八年度) (振)は追加せる凶作救済農山漁村振興事業を示す

事業種別	實 績		計 算		實 績	
	事業數量	實 施 數量	算 額	實 施 額	實 施 額	
新設測量	二里	里丁關分	五、七〇〇	〇	二〇、四七〇・六〇	
新設工事	一〇〇	里丁關分	三、〇〇〇	〇	七、四〇〇・〇〇	
改良測量	二七	里丁關分	九、四〇〇	(振)	二、八〇〇・〇〇	
改良工事(道路)	二〇	里丁關分	九、六、九八	(振)	一、七〇〇・〇〇	
改良工事(橋梁)	三〇	里丁關分	三九八、七四〇	(振)	一、五三三、〇五八	
修繕工事	一、八六四	里丁關分	一、九元、二四〇	橋梁三八箇所	四、四八、八五〇・三三	
境界標建設	〇	里丁關分	〇	〇	〇	
道路改良補助	二〇、一八〇	里丁關分	八三、〇〇四	(振)	二、三〇八、〇〇〇	
驛遞新設	三	里丁關分	二、〇〇〇	〇	三、〇〇八、〇〇〇	
同 修改築	八	里丁關分	一、〇〇〇	〇	二、一七九、〇〇〇	
同 馬匹購入	八〇	里丁關分	三、〇〇〇	〇	四、六五七、〇〇〇	
同 取扱人手當	三、五八〇	里丁關分	二、五八〇	〇	一、八五〇、〇〇〇	
渡船場新設	三	里丁關分	五、八二五	〇	二七、一四四、六二	
同 補助	九	里丁關分	八、八四〇	〇	七、三九〇・三三	
同 補助	〇	里丁關分	〇	〇	二、二六七、〇〇〇	
計			五、八四七、三〇〇		一、七三〇、〇〇〇	
					五、〇六四、七八一・七	
					七、二、五九一・七三	

(第一表参照)

豫定額と實施額との差

第九表

(自昭和二年年度豫定計畫額)
(至昭和九年年度總括)
(振)は水害救済振興事業を示す

事業種別	實		計		實		豫定額と實施額との差
	事業數量	施數量	豫算	畫算	實施數量	實額	
新設測量	八里	八里	四七、七五〇	四七、七五〇	八五、二五、九、七三	三三、五〇、九、九八	一、七三、二、四〇
新設工事	七〇	七〇	一七、二〇、〇〇〇	一七、二〇、〇〇〇	六八、三、一六、四、七〇	六七、五、五八、四、四六	一、六四、四、二二四
改良測量	一五五	一五五	五、四、三三〇	五、四、三三〇	三三、一、三三、二八	三、六三、四、四三	一、七〇、八、八九七
改良工事(道路)	二九	二九	四、八四、九五六	四、八四、九五六	二〇、〇、三三、五三	五、五〇、二、六四、〇〇	一、八四、一、三三、〇〇
改良工事(橋梁)	一、八七〇	一、八七〇	二、二九、四八〇	二、二九、四八〇	五、〇三、一、五〇	三、八七、六、五、三三	一、一六、一、三三、〇〇
修繕工事	一四、六三	一四、六三	一五、一五、三七五	一五、一五、三七五	一、四四、四、四、四三	一〇、六三、三、六、九〇	四、五二、一、〇〇五
境界地調査	三〇	三〇	四、四二六	四、四二六	橋梁九三箇所	二、七四、〇、〇〇	一、六八、六、〇〇〇
道路改良補助	五、八、八〇〇	五、八、八〇〇	一〇、七、四、五〇	一〇、七、四、五〇	六〇、一、四、五、五三	一四、一、九、九、〇〇	三、七、七、五、〇〇
驛舎新築	一	一	四、一〇、〇〇〇	四、一〇、〇〇〇	七、七、七、七、七〇	六、七、七、七、七〇	一、四、三、三、〇〇〇
改修築	一	一	三、四、〇、〇〇〇	三、四、〇、〇〇〇	七、九	二〇〇、三、三、三三	一、四、一、五、八、〇〇
馬匹購入	六四	六四	四、〇〇〇	四、〇〇〇	一、一八	六、二、九、九、六二	二、二、九、九、六二
取扱人手當	一、八〇〇	一、八〇〇	六、六、〇〇〇	六、六、〇〇〇	三、八一	二、九、一、四、〇、〇〇	三、六、一、四、〇、〇〇
渡船場新設	四〇	四〇	三、二、四〇〇	三、二、四〇〇	一、七、五	一〇、七、〇、〇、〇〇	七、四、七、〇、〇〇
同補助	一五	一五	四、五、三〇〇	四、五、三〇〇	二、六	一、五、六、六、六六	三、〇、六、六、六六
同補助	四	四	一、〇〇〇	一、〇〇〇	二、九〇	七、七、七、七、七〇	六、七、七、七、七〇
計			四、三〇、三、三三〇	四、三〇、三、三三〇		三、五、五、六、八、七五〇	五、七、三、三、七、七〇〇

自昭和二年年度
至昭和九年年度豫定計畫額

四、三〇、三、三三〇

右實額との差額

五、五、四、八、六六

説 苑